

八ヶ岳赤岳(2899m)山行報告

期 間：平成24年2月15日(金)N~2月17日(日)

山 域：八ヶ岳 赤岳(2899m)

参 加 者：金井良一(L)、福澤卓三、杉本真一、河本嘉照(記録)

コースタイム：

15日(金) 晴れ 新逗子発 21:00

16日(土) 晴れ 2:00 美濃戸口(幕営) 6:30—13:30 行者小屋(幕営)

17日(日) 晴れ 行者小屋 5:00—6:30 地蔵尾根稜線—7:40 赤岳—
9:30 行者小屋 10:10—13:00 美濃戸口

記録

15日(金) 現地へ車移動

21:00 金井L、杉本さん、河本の3名で新逗子を出発。渋滞も殆どなく中央道を経て双葉SAへ。ここで池袋からやってきた福澤さんと合流。河本は福澤さんの車に移り2台並走で美濃戸口Pへ向かう。

16日(土) 美濃戸口~行者へ

急いで幕を張り午前2:30の就寝であったが、当然の如く寒くて眠むれない。この時ほどイビキをかいて寝ている人を羨ましいと思ったことはない。結局寝たのか起きているのか分からないまま起床時間を迎える。手早く朝食(とろろ昆布うどん)を済ませ5:00 美濃戸口を出発。この日は天気も良く風も穏やかだったので、当初の予定を前倒しして赤岳山頂を一気に目指す目標であったが途中一気にペースダウン。結局ほぼ予定通り行者小屋に着いたのが13:30であった。



美濃戸山荘にて小休止



行者小屋に向けて南沢に行く

水を確保した後、まだ時間にゆとりがあったのでしばし歓談。「キジ撃ち」や「やっちょー」の語源、食料の準備の仕方、パッキングの方法等、私にとって聞く話全てが勉強であった。そうこうしている間にお楽しみの食事の時間がやってきた。この日のメニューは杉本さん特製、赤味噌と八丁味噌をブレンドした豚鍋味噌仕立て。この味は一生忘れる事はないであろう。疲労と冷え切った体に生気が戻ってきた。行者での

幕は寒くて寝むれないと耳にしていたが、この鍋のお陰で私はグッスリ眠る事ができた。



絶品味噌鍋

17日（日）赤岳へアタック

さて、いよいよこの日がメインイベント。予定では赤岳、阿弥陀と攻める筈であったが、福澤さんがどうも体調が優れないとの事で行者に残ることに。私の疲労や幕の撤収も考え、軽装で地藏尾根から登り、赤岳を経て、文三郎で行者に帰ってくるというルートを選択した。

2:30 起床。朝食（雑炊）を済ませた後、午前 5:00 凍てつく寒さの中、行者を出発。地藏尾根を杉本さん、河本、金井 L の順で進む。冷えた体を温める作戦だったのか？杉本さんが暗闇を怒濤の勢いで突き進む。底知れぬ寒さと暗闇の中、杉本さんの背中が私には大変頼もしく映った。山の男は度胸が違うなあと感心していると、今度は後方で金井 L が一言

「杉！ちょっとキジ撃つから先に行って！！」

私は耳を疑った。こんな状況でキジが撃てるのかと。（実は私は前日、行者で試みたがあまりの寒さに出るものも出なかった）百戦錬磨の豪傑はやはり器が違う。

少し話しが横道に反れたが樹林帯を抜けた頃、20 分程遅れてきた金井 L と合流。前日の積雪でトレースの無くなった道を、杉本さん先行のもと進んでいく。今まで経験したことのないような高度に足がすくむ私は、とにかく足元を確かめながら一步一步慎重に進む事しかできず、地藏尾根の頭に出たのが 6:30 の事だった。



地藏尾根上部



地藏の頭で御来光

地藏での御来光に感動し涙した方もいらっしやったみたいだが、見下ろす斜面に私は恐怖で涙した。しかし稜線に出たものの試練は続く。西側から吹き付ける凍てつく風でまつ毛は凍り、未熟なアイゼンワークでふくらはぎも悲鳴をあげている。正直限界を感じていたが、50 分程なんとか進み展望荘に到着。赤岳山頂は目前であったがここからがホントにキツイ。もうここまでくると技術もへったくれもなく、とにかく我武

者羅に、唸り声をあげ、前へ這いずりあがる。そして7:40。遂に赤岳山頂に到着。山頂標識を目前に杉本さんが私に先頭を譲ってくれ、感極まるものがあった。山頂では北岳、北アルプス、富士山などが望めたが、とにかく私は風と寒さと高さにビビリ、景色なんて楽しむゆとりが全く無かった。恥ずかしい話しである。



左杉本さん、右金井さん



左金井さん、右河本



左河本、右杉本さん

さて帰りは文三郎を降ってきたのだが、やはり登りよりもはるかに怖い。登りはキツイくてコワイ、降りには有り得ないくらいコワイといったところか。とにかく行者に戻るまでは全く気を抜かず金井さんの指示を仰ぎながら慎重に降る。途中足を滑らせ危ない思いもしたが、無事行者に戻ってきたのが9:30の事であった。行者に着くと福澤さんが手を振って出迎えてくれ、なんとも言えずホットした気持ちになったのを思い出す。



行者小屋にて、幕を畳んだ後皆で記念撮影

幕を畳み10:10に行者を出発。南沢、美濃戸山荘を経て美濃戸口に到着したのが13:00。予定通り皆無事下山。帰りに温泉（もみの湯）に寄り今回の山行を皆で振り返った。

私にとって今回初めての雪山であったが、なんとか赤岳登頂を成し遂げる事ができた

のは一重に、金井Lをはじめ、福澤さん、杉本さんのサポートのお陰である。単独で山行に出ていたならば、恐らく美濃戸Pで引き返していたに違いない。私は今回横須賀山岳会のメンバーの一員（準会員）になれた事に感謝すると共に、少しずつではあるが自分の技量磨き、早く会の為に役立つ人材になりたいと思う山行であった。皆さんありがとうございました！

以上